PROGRAM FLASH
5600HS(D)

J 使用説明書

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。ご使用前にこの使用説明書をよくお読みください。
この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

 警告 この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。
（左図の場合は発熱注意）

 警告

●指定された電池以外は使わないでください。
●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
●電池を火中へ投入したり、充電（充電が可能な電池を除く）、ショート、分解、加熱をしないでください。
●新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

リチウム電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するかリサイクルしてください。

警告

製品および電池や付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。

幼児が電池を飲み込む等、事故の恐れがあります。万一飲み込んだ場合はただちに医師にご相談ください。

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。

感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。

修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。

放置すると火災や火傷の原因となります。

注意

発光部に皮膚や物を密着させせた状態で、フラッシュを発光させないでください。

発光の時、発光部が大変熱くなり、火傷の恐れがあります。

目次

基本撮影

応用撮影

資料

お買い上げありがとうございます。

プログラムフラッシュ5600HS（D）は、最大ガイドナンバー56と大光量で、多機能でありながらコンパクトにまとめられた、コニカミノルタオートフォーカス一眼レフ用・デジタルカメラ用のシステムフラッシュです。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

お使いになるカメラおよびフラッシュについて

カメラについて

この使用説明書は、プログラムフラッシュ5600HS（D）を、以下のカメラに取り付けたことを前提に説明しています。

α-7 DIGITAL、Sweet DIGITAL
α-9、7、70、Sweet Ⅱ、Sweet ⅡL、Sweet、SweetS、807si、707si、507si、360si、303si SUPER、303si、101si
DYNAX 3L、30
DiMAGE A200、A2、A1、Z5、Z3、Z2、Z1、7Hi、7i、7、5

これら以外のαシリーズカメラやディマージュシリーズデジタルカメラ、およびベクティスシリーズカメラに取り付けてお使いの場合は、本文と合わせて、69ページの「その他の製品と組み合わせた場合」もお読みください。

フラッシュについて

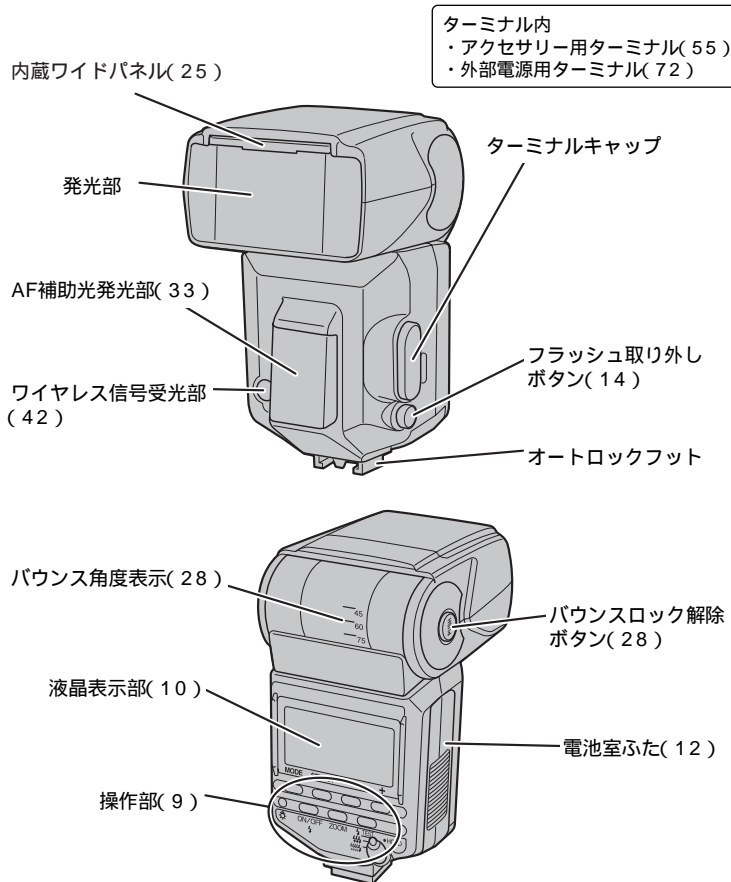
ワイヤレスフラッシュ撮影等複数のフラッシュを使用する場合、便宜上、以下のフラッシュをDフラッシュとして分類しています。

プログラムフラッシュ5600HS（D）
プログラムフラッシュ3600HS（D）

このフラッシュは、コニカミノルタαシリーズ一眼レフカメラおよびデジタルカメラ用に設計・製造されたものです。この使用説明書に記載されている弊社製カメラおよびデジタルカメラ以外に装着することはできません。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

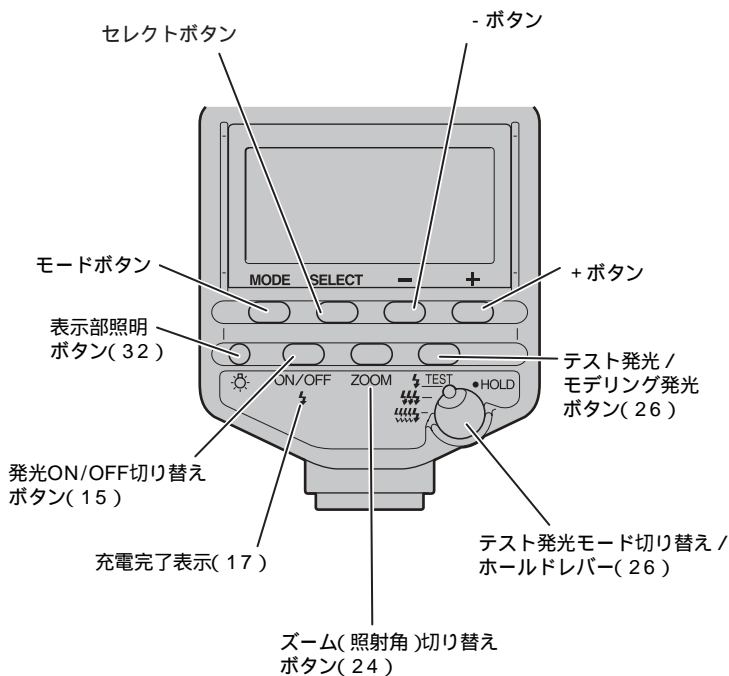
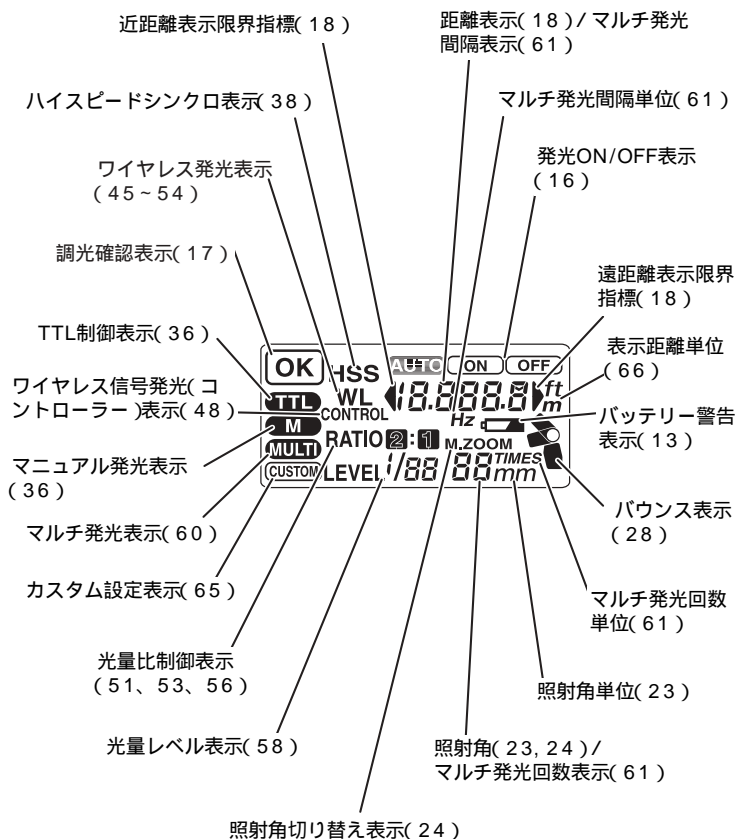
本使用説明書の作成後に発売されたカメラと組み合わせた場合の互換性や使用方法等については、裏表紙に記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

各部の名称

フラッシュ全体図

（　）内は参照ページです。

※ご使用前にフラッシュ前面部のテープをはがしてください。

操作部

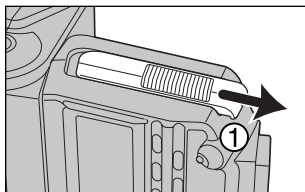
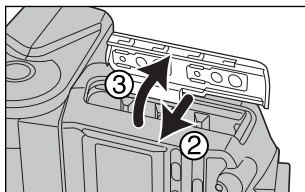
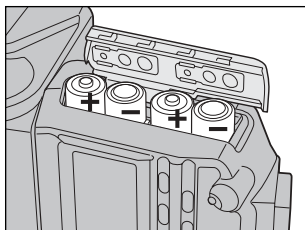
セレクトボタン
－ボタン
モードボタン
MODE
SELECT
＋ボタン
表示部照明
ボタン（32）
テスト発光／
モデリング発光
ボタン（26）
ON/OFF
ZOOM
TEST
HOLD
発光ON/OFF切り替え
ボタン（15）
充電完了表示（17）
テスト発光モード切り替え／
ホールドレバー（26）
ズーム（照射角）切り替え
ボタン（24）

液晶表示部

※このページの図では、説明のためすべての表示を点灯させています。

基本撮影

フラッシュの準備および最も基本的な撮影方法を説明しています。

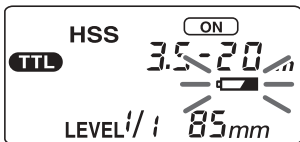
● 自動発光とは必要時にフラッシュが自動的に発光すること、強制発光とはフラッシュが必ず発光することを意味します。

電池の入れ方

以下のいずれかの電池を使用します。
・単3形アルカリ乾電池　4本
・単3形リチウム電池　4本
・単3形ニッケル水素電池（Ni-MH）　4本
　ニッケル水素電池は、必ず指定の充電器で完全に充電してからお使いください。

1. 電池室のふたを図の方向に押して開けます。

2. 電池室内の表示にしたがって電池を入れます。

3. 電池室のふたを閉めます。

- 開けるときと反対の手順に沿ってください。
- 液晶表示部に表示が現れます。表示されない場合は、発光ON/OFF切り替えボタンを押してください。

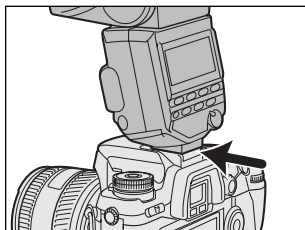
電池容量のチェック

電池の容量が少なくなったら、液晶表示部に ▭ が表示されます。

▭ 点滅— 電池の交換をおすすめします。この状態でも、背面の充電完了表示 ⚡ が点灯したら、フラッシュ発光は可能です。

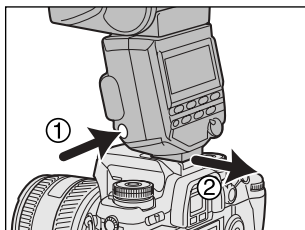
▭ のみ点滅— 新しい電池と交換してください。フラッシュは発光しません。

● フラッシュの発光ON/OFF切り替えボタンを押しても何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。

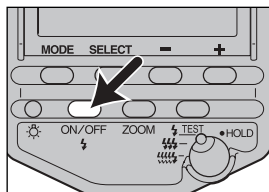
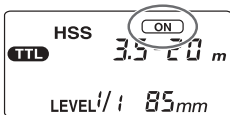
カメラへの取り付け方／取り外し方

取り付け方

オートロックフットを、矢印方向に止まるまでしっかり差し込みます。

- 自動的にロックされます。
- カメラの内蔵フラッシュが上がっているときは、下げてから取り付けてください。

取り外し方

フラッシュ取り外しボタンを押しながら①、フラッシュを取り外します②。

ON/OFF切り替え

フラッシュ背面の発光ON/OFF切り替えボタンを押すと、フラッシュの電源が入ります。

電源が入ると、液晶表示部に ON が表示されます。

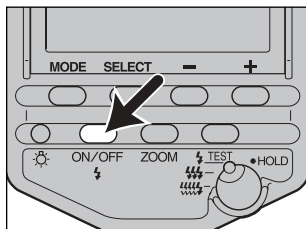
電源が入った状態で発光ON/OFF切り替えボタンを押すと、電源が切れ、 OFF が表示されます。
- OFF は8秒後に消えます。

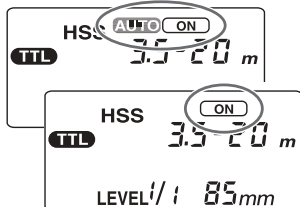
- フラッシュをカメラに取り付けてカメラを操作すると、自動的に液晶表示部にフラッシュの設定（ ON または OFF ）が表示されます（オートパワーオン）。

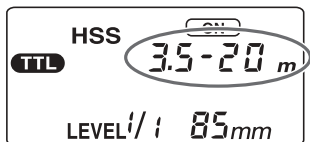
カメラまたはフラッシュを4分以上操作しないでいると、節電のため自動的に電源が切れ、表示が消灯します（オートパワーオフ）。
- ワイヤレスフラッシュ撮影時（40ページ）は60分で表示が消灯します。
- カスタム設定により、オートパワーオフまでの時間を変更する、またはオートパワーオフの作動を禁止することもできます（66ページ参照）。

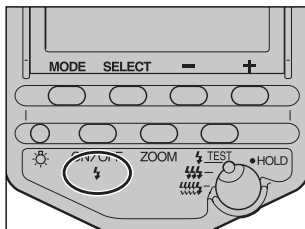
使用フィルム

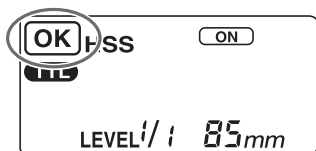
TTLダイレクト測光（液晶表示部に TTL が表示されている状態、36ページ参照）では、ISO 1000を越える高感度フィルムは使用しないでください。露出の誤差が大きくなります。
- 低感度側の限界は、カメラの使用可能フィルムの低感度側限界と同じです。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

1. カメラの露出モードをPモードにします。

2. 発光ON/OFF切り替えボタンを押して、AUTO ON または ON を表示させます。

3. カメラのシャッターボタンを半押しします。

- 自動発光の場合、AUTO と ON が表示されます。強制発光の場合は、ON のみが表示されます。

- αデジタルカメラ、DiMAGEシリーズ、α-9/807siの場合：Pモードにすると強制発光となります。α-807siの場合は、カスタム設定で自動発光にすることもできます。
- α-7の場合：フルオートプログラムだと自動発光、Pモードにすると強制発光となります。
- その他のカメラの場合：Pモード（またはおまかせPモード）にすると自動発光となります。カメラの内蔵フラッシュと同じ方法で、強制発光にすることもできます。

4. シャッターボタンを半押しして、被写体が調光距離の範囲内にあることを確認します。

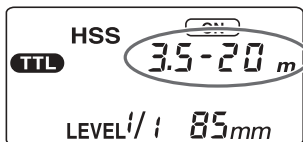
- 調光距離については18ページをご覧ください。

5. フラッシュの充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

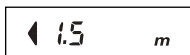
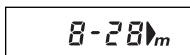
- フラッシュは背面の⚡が、カメラはファインダー内の⚡がそれぞれ点灯したら、充電完了です。

撮影後、適正露出が得られたときには、

- フラッシュは液晶表示部の OK が約4秒間点灯します。
- カメラはファインダー内の⚡が点滅します。

- 充電が完了する前に撮影すると、露出アンダーになることがあります。
- リバーサルフィルム使用時は、充電完了直後に撮影すると、調光距離範囲の遠距離側限界付近（次ページ）で露出アンダーになることがあります。
- セルフタイマーでフラッシュ撮影を行なうときは、充電完了を確認してからシャッターボタンを押し込んでください。

次ページへ続く

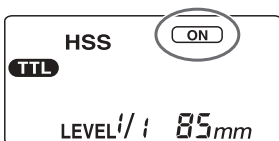
調光距離

シャッターボタンを半押しすると、液晶表示部に、適正露出が得られる撮影距離（調光距離）が表示されます。被写体がこの範囲内にあるのを確認してから撮影してください。

表示可能な距離範囲は1.5～28mです（下向きのバウンス撮影時は0.7～28m、31ページ参照）。調光距離がこの範囲を越える場合は、両側の◀または▶が点灯します。

適正露出の得られる範囲は1.5m以下です。

適正露出の得られる範囲は8m～28m以上です。

- 上および左右方向のバウンス撮影時、ワイヤレスフラッシュ撮影時、およびオフカメラケーブル使用時には、調光距離は表示されません。
- 調光距離範囲の近距離側限界より近くで撮影すると、OKが点灯していても露出オーバーになったり、画面下部が暗くなったりすることがあります。表示されている範囲内で撮影してください。

A・S・Mモードのないカメラでは、これらの撮影はできません。

Aモードフラッシュ撮影

1. カメラの露出モードをAモードにします。

2. 発光ON/OFF切り替えボタンを押して、ON を表示させます。

● フラッシュは強制発光となります。

3. 絞り値を設定し、ピントを合わせます。

● 絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と調光距離は短く、開放側にする（絞り値を小さくする）と長くなります。

● シャッター速度は自動的に設定されます。

4. 充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

Sモードフラッシュ撮影

1. カメラの露出モードをSモードにします。

2. 発光ON/OFF切り替えボタンを押して、ON を表示させます。

● フラッシュは強制発光となります。

3. シャッター速度を設定し、ピントを合わせます。

● ハイスピードシンクロ機能のないカメラでは、同調速度より速いシャッター速度は選べません。

● α-303siSUPER/303siでは、シャッター速度は自動的に設定されます。

4. 充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

Mモードフラッシュ撮影

1. カメラの露出モードをMモードにします。

2. 発光ON/OFF切り替えボタンを押して、ON を表示させます。

- フラッシュは強制発光となります。

3. 絞り値とシャッター速度を設定し、ピントを合わせます。

- 絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と調光距離は短く、開放側にする（絞り値を小さくする）と長くなります。
- ハイスピードシンクロ機能のないカメラでは、同調速度より速いシャッター速度は選べません。

4. 充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

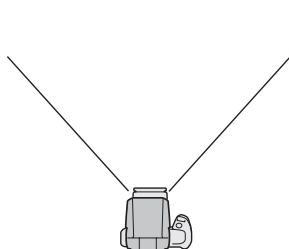
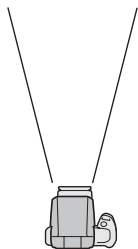
フラッシュ同調速度

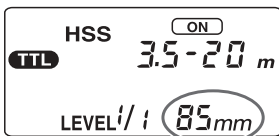
一般的にフラッシュ撮影時には、これ以上の速度で撮影できないという限界のシャッター速度（フラッシュ同調速度）があります。ハイスピードシンクロ撮影（38ページ）の可能なカメラでは、この同調速度の制限はなくなり、カメラの持つ最速のシャッター速度でのフラッシュ撮影が可能です。各カメラの同調速度およびハイスピードシンクロについては、カメラの使用説明書をご覧ください。
DiMAGEシリーズデジタルカメラでは、シャッターの形式そのものが異なるため、すべてのシャッター速度での撮影が可能です。

応用撮影

このフラッシュの性能をフルに活かした各種撮影方法を
説明しています。

照射角の切り替え

照射角自動切り替え

焦点距離24mmの場合

焦点距離85mmの場合

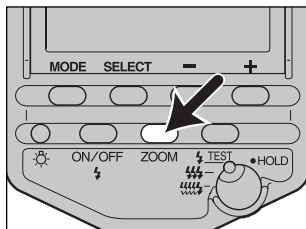
このフラッシュでは、24～85mmの範囲で撮影中のレンズの画角をカバーするように、自動的に照射角が切り替わります（オートズーム）。通常は手動で照射角を切り替える必要はありません。

● シャッターボタンを半押しすると、自動で設定された照射角が液晶表示部に表示されます。

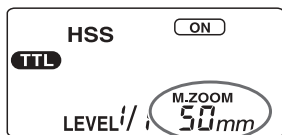
● オートズーム位置は使用レンズの焦点距離に応じて右のように設定されます。

使用レンズの焦点距離	オートズーム位置
24mm～27mm	24mm
28mm～34mm	28mm
35mm～49mm	35mm
50mm～69mm	50mm
70mm～84mm	70mm
85mm～	85mm

● オートズームの状態で焦点距離24mm未満のレンズを使用すると、「24mm」が点滅します。内蔵ワイドパネル（25ページ）の使用をおすすめします。そのまま撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。

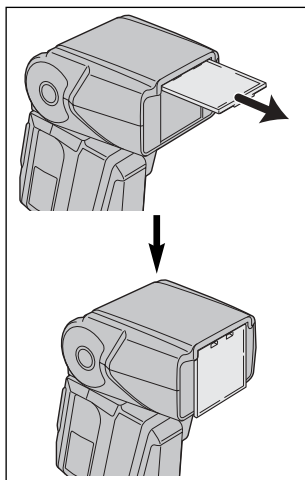
照射角手動切り替え

使用中のレンズの焦点距離にかかわらず、手動で照射角を設定することもできます（マニュアルズーム）。

ズーム（照射角）切り替えボタン（ZOOM）を押して、希望の照射角を表示させます。

● 以下の順に照射角が切り替わります。
オートズーム → 24mm → 28mm → 35mm → 50mm → 70mm → 85mm

● 手動で設定した場合は、照射角の上に「M.ZOOM」が表示されます。

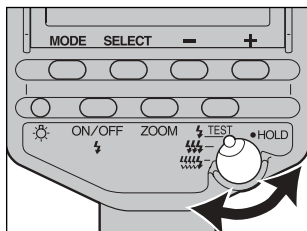
● 使用中のレンズの焦点距離より狭い照射角（望遠側）を設定すると、画面周辺が暗くなります。

内蔵ワイドパネル（17mmの画角をカバー）

内蔵ワイドパネルを引き出すと、17mmまでの画角をカバーします。

パネルを持って引き出します。

- 液晶表示部の照射角表示は「17mm」になります。調光距離表示も有効です。
- パネルを収納する際は、奥まできっちり押し込んでください。
- 17-35mm F3.5Gの広角側など、超広角レンズで平面被写体を正面から撮影する場合、画面中央部と周辺部で撮影距離が異なるため、画面周辺が若干暗くなることがあります。

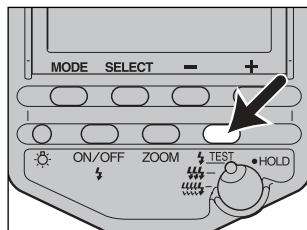
テスト発光／モデリング発光

撮影前に、フラッシュを1回または複数回テスト発光させることができます。特にワイヤレスフラッシュ等フラッシュをカメラから離したときに、影の出方をあらかじめ確認するのに便利です。
※モデリング発光とは、撮影前に被写体の影の出方を確認するために行なう発光のことです。

1. テスト発光モード切り替え／ホールドレバーを、希望のモードに合わせます。

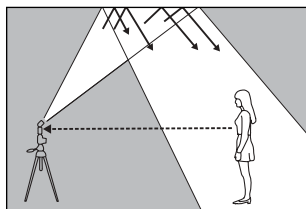
ϟ　設定されている光量（LEVEL 1/1〜1/32）で1回だけ発光します。
- ●マニュアルフラッシュ撮影（36ページ）でフラッシュメーター等をお使いの際には、この設定にしてください。
- ●マルチ発光撮影時（60ページ）は、押している間、設定した回数分だけフラッシュが発光します。

ϟϟϟ　1秒に2回の割合で3回発光します（ズーム位置24mmでガイドナンバー5.6）。
- ●大まかな影を確認するときにお使いください。

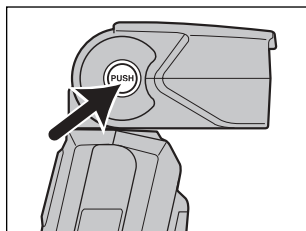
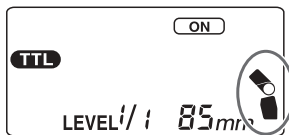
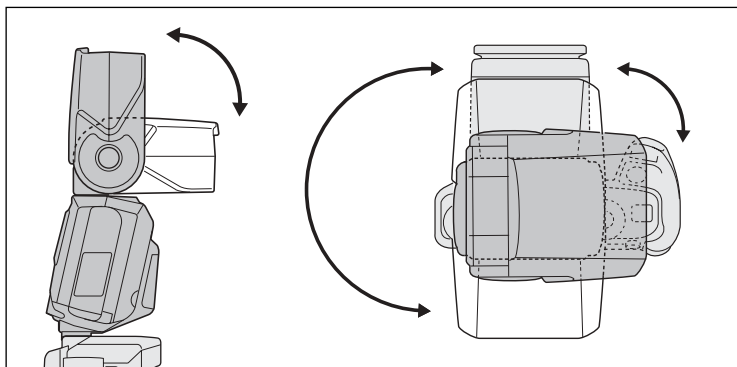
ϟϟϟϟ　1秒に40回の割合で4秒間発光します（ズーム位置24mmでガイドナンバー1.4）。
- ●マクロ撮影等、細かい影の様子を確認するのに便利です。

HOLD　誤って設定が変わらないようにするための位置です（ホールド）。
- ●この位置では、テスト発光ボタン・表示部照明ボタン以外のフラッシュの操作はできません。カメラの操作は可能なので、撮影はできます。

2. フラッシュの充電が完了したら、テスト発光／モデリング発光ボタンを押します。

- フラッシュ発光中は、シャッターを切らないでください。
- 影の強弱は、実際に撮影したときの影とは異なることがあります。
- 明るい場所や屋外での発光、またはバウンス撮影時は、影が薄くなるので確認が難しくなります。

バウンス撮影

被写体のすぐ後ろに壁があるときにフラッシュを発光させると、壁に強い影ができてしまいます。このような場合に発光部を天井などに向けて発光させ、その反射光によって被写体を照明すると、強い影がなくなり、画面全体に光の回ったやわらかい写真が撮れます。

バウンス撮影

通常のフラッシュ撮影

バウンスロック解除ボタンを押しながら、発光部を上方向または左右に回転させます。

●液晶表示部にバウンス表示が現れます。

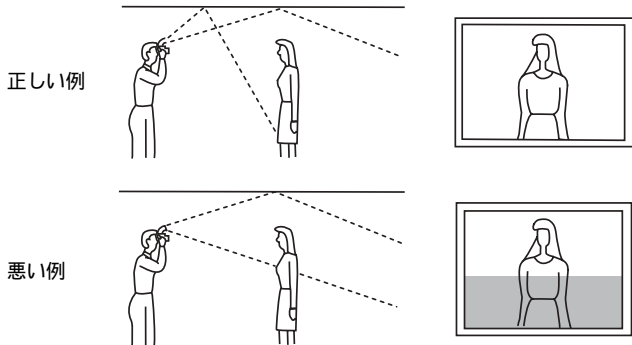
フラッシュ発光部は、以下の角度で回転することができます。

● 上方向：45°、60°、75°、90°
● 下方向：10°（31ページ「近距離撮影」参照）
● 右方向：30°、45°、60°、75°、90°
● 左方向：30°、45°、60°、75°、90°、120°、150°、180°

● ロックは正位置（0°）でのみかかります。元の位置に戻すときは、ロック解除ボタンを押す必要はありません。
● フラッシュ発光部を上方向または左右方向に回転させると、液晶表示部の調光距離は表示されません。ハイスピードシンクロ（38ページ）も解除されます。
● フラッシュ光を反射させる面（天井や壁）は、白っぽいものをおすすめします。色付きだと、反射したフラッシュ光が色の影響を受けることがあります。ガラス等反射しやすいものや高い天井はおすすめできません。

次ページへ続く

バウンス角度の調整

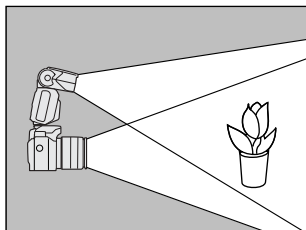
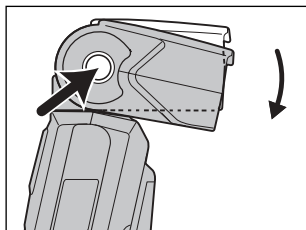
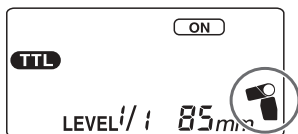
フラッシュの直接光とバウンス光が同時に画面に入ると、見苦しい写真となります。反射させる面までの距離、撮影距離、使用レンズの焦点距離などを考慮に入れて角度を決めてください。

上方向にバウンスさせる場合

右の表を参考に角度を決めてください。

使用レンズの焦点距離	バウンス角度
70mm以上	45°
28～70mm	60°
28mm以下	75°、90°

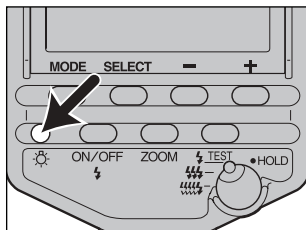
左右にバウンスさせる場合

90°回転させて真横でバウンスすることをおすすめします。90°よりも狭い角度にするときは、フラッシュの直接光が被写体に当たらないようにしてください。

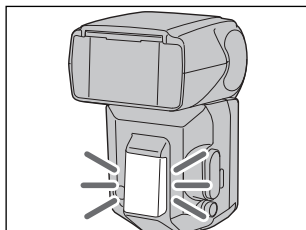
近距離撮影（下向きのバウンス撮影）

0.7m～1.5mの距離にあるものを撮影する場合は、フラッシュ発光部を下に向けると、被写体を正確に照らすことができます。

バウンスロック解除ボタンを押しながら、発光部を下方向に回転させます。

- 液晶表示部に下向きのバウンス表示が現れます。
- 回転角度は10 °です。

- 0.7m以内で撮影すると、フラッシュ発光部が被写体の方向に向かないため、画面下部が暗くなることがあります。オフカメラ撮影を行なうか、マクロフラッシュの使用をおすすめします。

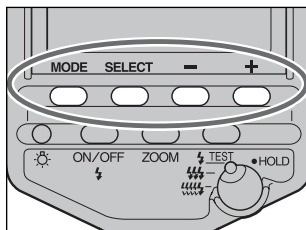
液晶表示部照明

表示部が暗いときは照明をつけることができます。

表示部照明ボタンを押します。

- 約8秒間照明が点灯します。その間にフラッシュ操作を行なうと、点灯時間は延長されます。
- 点灯中にもう一度照明ボタンを押すと、すぐに消灯します。

AF補助光

被写体が暗いときやコントラスト（明暗差）が小さいときは、シャッターボタン半押し等オートフォーカスでピントを合わせると、フラッシュ前面の赤いランプが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

● AF補助光は、ワイドフォーカスフレーム付きのカメラのすべてのローカルフォーカスフレームに対応しています。
● AF補助光は、フラッシュの発光がOFFの状態でも発光します。
● フラッシュのAF補助光が発光するときは、カメラのAF補助光は発光しません。
● フォーカスモードがコンティニュアスAFの状態になっているとき（動いているものにピントを合わせ続けている場合）は、AF補助光は発光しません。
● レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。フラッシュをカメラから離しているときや、AFマクロズーム3X-1X使用時にも発光しません。

モードボタンとセレクトボタン

モードボタン、セレクトボタン、＋ボタン、－ボタンの4つにより、次ページのフラッシュ機能の設定を行なうことができます。

基本的には、以下の手順により設定できます。詳細は各ページをご覧ください。

1. モードボタンで大項目を選択
2. セレクトボタンで小項目を選択
3. ＋ボタン・－ボタンで設定を選択
4. 点滅が止まるまでセレクトボタン*を数回押す

*モードボタンまたは発光ON/OFF切り替えボタンでも可能

モードボタンで設定するもの	セレクトボタンで設定するもの	＋ボタン、－ボタンで設定するもの（斜体字は初期設定です。）
TTL（36）	HSS（38）	*ON,* OFF
	WL（40）	*OFF,* ON, CONTROL
	RATIO	*OFF,* **2**: 1 , 2 :**1**
	LEVEL（58）	*1/1,* 1/2, 1/4, 1/8, 1/16, 1/32
M（36）	HSS（38）	*ON,* OFF
	WL（40）	*OFF,* ON
	LEVEL（58）	*1/1,* 1/2, 1/4, 1/8, 1/16, 1/32
MULTI（60）	Hz	100, 50, 40, 30, 20, 10, 9, 8, 7, 6, *5,* 4, 3, 2, 1
	TIME	- -（無制限）, 40, 35, 30, 25, 20, 15, *10,* 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2
	LEVEL	1/8, 1/16, *1/32*

（　）内は参照ページです。

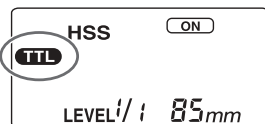
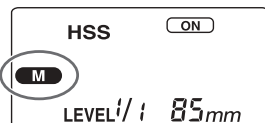
- ＋ボタンと－ボタンを同時に3秒間押すと、上記を含むフラッシュの設定を初期状態に戻すことができます（64ページ参照）。
- 機能同士の組み合わせにより設定できない場合は表示されません。例えばRATIOを**2**: 1 または2 :**1** にするとHSSが設定できないので、セレクトボタンを押してもHSSは現れません。

マニュアルフラッシュ撮影（M）

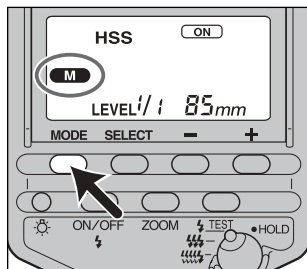
TTL撮影

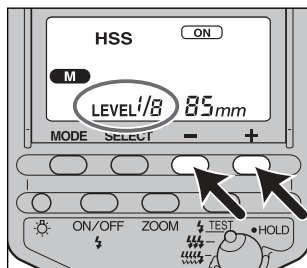
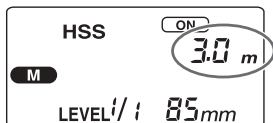
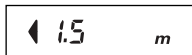
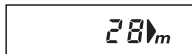
マニュアルフラッシュ撮影

通常のTTLフラッシュ撮影では、被写体が適正露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されます。マニュアルフラッシュ撮影にすると、被写体の明るさやカメラの設定に関係なく、常に一定の発光量を得ることができます。

● マニュアルフラッシュ撮影は、カメラのM（マニュアル）モードでのみ可能です。Mモード以外で行なうと、自動的にTTLフラッシュ撮影に切り替わります。
● 被写体の反射率に影響されないため、反射率が極端に高いものや低いものを撮影するときに便利です。

1. カメラをMモードに設定します。

2. モードボタンを押して、液晶表示部に M を表示させます。

● TTL 、 M 、 MULTI の順に表示が変わります。

3. ＋ボタンまたは－ボタンを押して、設定したい光量レベルを選びます。

● 以下の範囲で光量レベルが切り替わります。
1/1、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32
● 光量レベルの設定について、詳しくは58ページをご覧ください。

● シャッターボタンを半押しすると、表示部に適正露出が得られる距離が表示されます。

◀ 1.5 m　適正露出の得られる距離は1.5m以下です。

28▶m　適正露出の得られる距離は28m以上です。

● マニュアルフラッシュ撮影では、撮影後の調光確認表示 OK は表示されません。
● カスタム設定により、カメラをMモードにしなくてもマニュアルフラッシュ撮影の設定を可能にすることもできます（66ページ参照）。

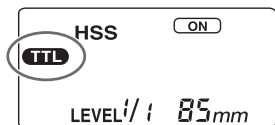
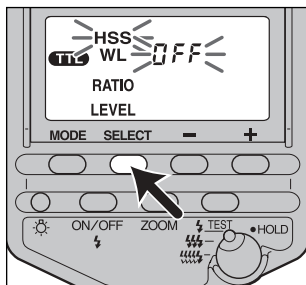
TTLフラッシュ撮影

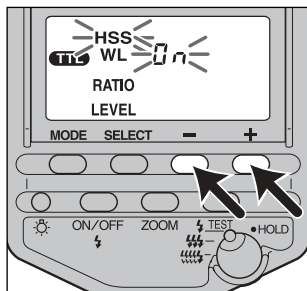
マニュアルフラッシュ撮影に対して、TTLフラッシュ撮影ではTTLダイレクト調光により、レンズを通ってフィルム面で反射した被写体からの光を測光します。フィルム面に当たる光が適正量に達すると、カメラによりフラッシュの発光が停止されます。
α-7・Dレンズ・5600HS（D）との組み合わせなどでは、ADI調光やDI調光も可能です。これらはTTL調光の一種で、距離情報を活用することでより正確に被写体の明るさを測ります。5600HS（D）では、ADI調光・DI調光の両方も含めてTTLダイレクト調光とし、液晶表示部では TTL で表示しています。

ハイスピードシンクロ撮影（HSS）

ハイスピードシンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

ハイスピードシンクロ撮影にすると、フラッシュ同調速度の制限がなくなり、カメラの持つシャッター速度全域でのフラッシュ撮影ができるようになります。絞り値の選択幅が広がるので、フラッシュを使った撮影でも絞りを開けて背景をぼかし、人物が浮き上がって見えるポートレートらしい写真を撮ることができます。またAモードやMモードで開放側の絞り値でフラッシュ撮影をするとき、背景が非常に明るくて通常は露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出にすることができます。

1. モードボタンを押して、液晶表示部に TTL または M を表示させます。

2. セレクトボタンを押して、「HSS」を点滅させます。

- 現在のハイスピードシンクロ撮影の設定（OFFまたはOn）も同時に点滅します。

3. ＋ボタンをまたは－ボタンを押して、On を選びます。

4.点滅が止まるまでセレクトボタンを何回か押します。

● 設定後、液晶表示部に「HSS」が残ります。

● 上記の手順でOFFを選ぶと、ハイスピードシンクロ撮影は解除されます。解除すると、同調速度より高速側のシャッター速度は設定されません。
● 明るい場所での撮影をおすすめします。暗いところでは、On にしていてもシャッター速度が同調速度以上に上がりません。
● ハイスピードシンクロ撮影時は、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離範囲が短くなります。撮影前に被写体が距離表示内にあるかどうか確認してください。
● マルチ発光撮影、光量比制御撮影、および上・左右方向のバウンス撮影でのハイスピードシンクロ撮影はできません。
● フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合は、適正露出が得られないためハイスピードシンクロ撮影はできません。OFFを選んで解除するか、同調速度以下のシャッター速度を選んでください。
● 一部のカメラでは、ハイスピードシンクロ撮影に対応しておりません。
● DiMAGEシリーズデジタルカメラでは、ハイスピードシンクロの設定に関係なく、全シャッター速度での撮影が可能です。

ワイヤレスフラッシュ撮影（WL）

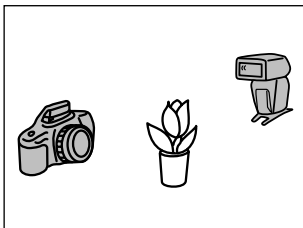
通常撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影
（光量比制御）

フラッシュをカメラに取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから取り外して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます（写真②）。
写真③は、カメラの内蔵フラッシュとカメラから離したプログラムフラッシュの光量を、1:2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。
一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このフラッシュでは、コードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス（＝コードのない）フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

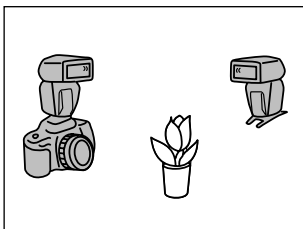
ワイヤレスフラッシュ撮影の種類

ワイヤレスフラッシュには以下の3種類があります。

[1]内蔵フラッシュを使用する方法（45ページ）

以下の2つが可能です。

- カメラから離したフラッシュのみ発光させる（40ページ写真②）
- 内蔵フラッシュを1、カメラから離したフラッシュを2の割合で発光させる（40ページ写真③）

使用可能カメラおよびフラッシュ

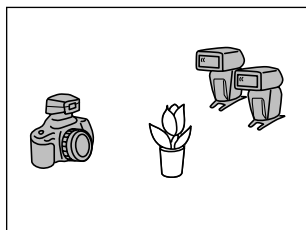
- カメラは、6ページに記載されているカメラならすべて可能（DiMAGE A200/7/5、ZシリーズおよびDYNAX 30を除く）
- プログラムフラッシュ5600HS（D）/3600HS（D）/5400HS/5400xi/3500xiのいずれか1台

[2]プログラムフラッシュを2台使用する方法（48ページ）

以下の2つが可能です。

- カメラから離したフラッシュのみ発光させる（40ページ写真②）
- カメラに取り付けたフラッシュを1、カメラから離したフラッシュを2の割合で発光させる（40ページ写真③）

使用可能カメラおよびフラッシュ

- α-9/7/807si/707si/507siのいずれか1台
- プログラムフラッシュ5600HS（D）/5400HS/5400xiのいずれか2台（1台は3600HS（D）/3500xiでも可）。

次ページへ続く

[3]ワイヤレスフラッシュリモコンを使用する方法（52ページ）

以下の2つが可能です。

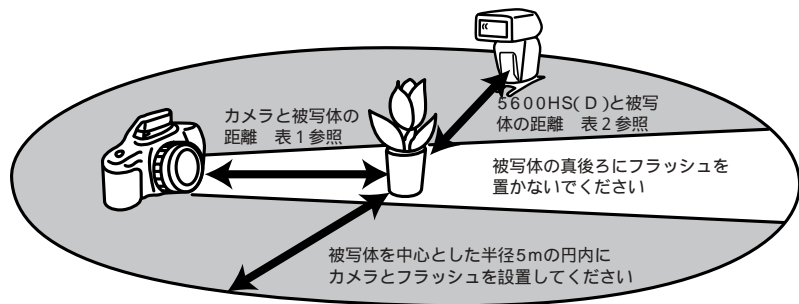
- カメラから離したフラッシュを発光させる（40ページ写真②）
- カメラから離したフラッシュ同士を1:2または2:1の割合で発光させる

使用可能カメラおよびフラッシュ

- α-9/7/807si/707si/507siのいずれか1台
- ワイヤレスフラッシュリモコンと、プログラムフラッシュ5600HS（D）/3600HS（D）/5400HS/5400xi/3500xiのいずれか1台以上

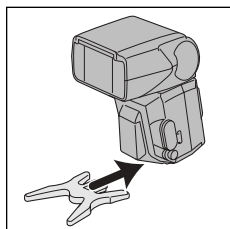
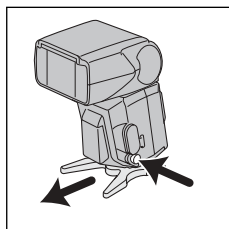
ワイヤレスフラッシュ撮影の距離範囲

ワイヤレスフラッシュは、内蔵フラッシュ等の発光を信号光として、カメラから離したプログラムフラッシュを発光させます。信号光が正しく受け取れるよう、以下に気を付けてカメラ・フラッシュ・被写体を設置してください。

- 室内など暗いところで撮影してください。
- フラッシュのバウンス機能（28ページ）を利用してワイヤレス信号受光部をカメラに向けると、カメラの内蔵フラッシュの信号光が受け取りやすくなります。
- 下図の灰色の部分にカメラから離したフラッシュを設置してください。αシリーズデジタルカメラまたはDiMAGEシリーズカメラをお使いの場合は、表中の距離についてはカメラの使用説明書をご覧ください。5600HS（D）以外のフラッシュをお使いの場合は、フラッシュと被写体の距離（表2）についてはそのフラッシュの使用説明書をご覧ください。

	カメラと被写体の距離(表１)	5600HS（D）と被写体の距離（表２）						
		HSSでない撮影		HSS撮影				
シャッター速度 / 絞り値	全シャッター速度	1/60秒以下	1/60～1/200秒	1/250秒	1/500秒	1/1000秒	1/2000秒	1/4000秒
2.8	1.4 - 5	1.4 - 5	1 - 5	1 - 5	1 - 3.5	1 - 2.5	1 - 1.7	1 - 1.2
4	1 - 5	1 - 5	1 - 5	1 - 3.5	1 - 2.5	1 - 1.7	1 - 1.2	—
5.6	1 - 5	1 - 5	1 - 5	1 - 2.5	1 - 1.7	1 - 1.2	—	—

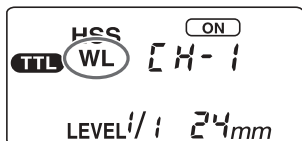
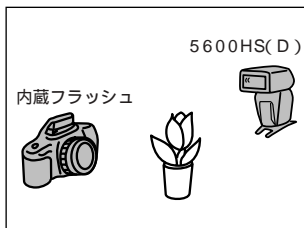
単位 m

- 表の値はISO 100のフィルム使用時です。ISO 400の場合は、上記の値の2倍の距離になります（上限は5mを目安としてください）。
- ワイヤレスフラッシュ撮影では、液晶表示部の調光距離は表示されません。

ワイヤレスフラッシュ撮影時の注意

取り付け

取り外し

● フラッシュをカメラから離したときは、付属のミニスタンド（MS-2）を取り付けると便利です。ミニスタンドには三脚用のねじ穴も付いています。

● ワイヤレス撮影時は、撮影直前にフラッシュが一度発光するため、フラッシュメーター、カラーメーターでの測定はできません。
● ワイヤレスフラッシュのテスト発光は、現在選択されているテスト発光モードで行われます。 だと3回、 だと4秒間発光します。HOLD位置では1回のみの発光となります。
● 5600HS（D）の照射角は、自動的に24mmになります。24mm以外はおすすめできません。
● オフカメラ撮影では、ADI・DI調光は自動的にTTLダイレクト調光になります（フラッシュ調光については37ページ参照）。
● ワイヤレスフラッシュでスローシンクロ撮影をする場合は、AEロックボタン※を押してテスト発光を行なった後、そのままAEロックボタンを押し続けて撮影してください。
※スポットAEロックボタン等、カメラによって名称が異なります。また、スローシンクロ撮影機能のない機種もあります。
● マルチ発光撮影はできません。
● 撮影会などで近くにワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいると、その人の内蔵フラッシュ等の信号光により、お使いのフラッシュが発光してしまうことがあります。このような場合は、カスタム設定によりチャンネルを変更することができます（65ページ参照）。

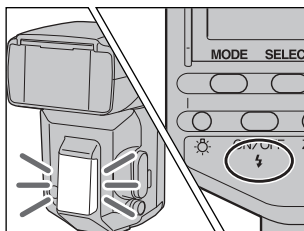
[1]-1 内蔵フラッシュを使用する方法

1. 5600HS（D）をカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2. カメラをワイヤレスフラッシュに設定します。

- 設定方法はカメラによって異なります。カメラの使用説明書をご覧ください。
- カメラをワイヤレスに設定すると、5600HS（D）も自動的にワイヤレス設定になり、表示部にWLが表示されます。

3. 5600HS（D）をカメラから取り外し、カメラの内蔵フラッシュを上げます。

4. カメラと5600HS（D）を設置します。

- 設置方法は43ページをご覧ください。

5. 内蔵フラッシュと5600HS（D）の充電完了を確認します。

- 内蔵フラッシュは、充電完了時にはファインダー内の⚡が点灯します。
- 5600HS（D）は、充電完了時には前面のAF補助光が点滅し、背面の⚡が点灯します。

次ページへ続く

6.テスト発光を行ない、5600HS（D）の発光を確認します。

- テスト発光の方法は、AEロックボタン・スポットAEロックボタンを押すなどカメラによって異なります。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。
- 発光しない場合は、カメラ・フラッシュ・被写体の配置場所を変えるか、フラッシュのワイヤレス信号受光部をカメラに向けてください。

7.もう一度内蔵フラッシュと5600HS（D）の充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- フラッシュ表示部にRATIOが表示されている状態で撮影しないでください。正しい露出が得られないことがあります。

[1]-2 内蔵フラッシュを使用した光量比制御撮影

40ページの写真③のように、カメラの内蔵フラッシュを1、5600HS（D）を2の割合で発光させることもできます。
操作方法はカメラによって異なります。カメラの使用説明書をご覧ください。

- シャッター速度は1/60秒以下（低速側）に設定してください。ワイヤレスハイスピードシンクロ撮影はできません。
- α-7 DIGITAL/SweetⅡL/360si/101si、DYNAX 3L および DiMAGEシリーズでは、光量比制御撮影はできません。

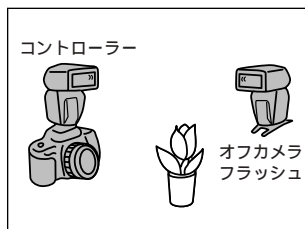
[1]-3 5600HS（D）単独でワイヤレスに設定する場合

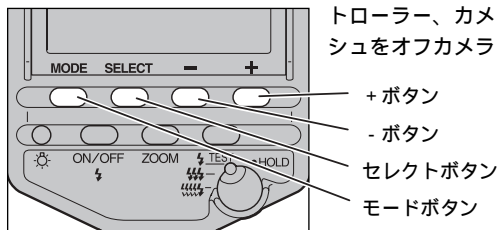
前述の方法では、カメラと5600HS（D）の両方をワイヤレス設定にするだけでなく、フラッシュのチャンネル情報も同時にカメラに伝えます。フラッシュのチャンネルを変えずに同一カメラとフラッシュを使い続ける場合、次からはカメラと5600HS（D）を別々にワイヤレスに設定することも可能です。

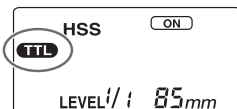
● α-360si/303siSUPER/303si/101si/DYNAX 3Lでは、フラッシュをカメラに取り付けないとカメラ側がワイヤレス設定にならないため、この方法は使えません。

カメラ側：
ワイヤレスに設定します。操作方法はカメラの使用説明書をご覧ください。

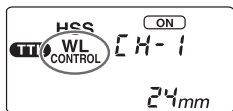
5600HS（D）側：
1. モードボタンを押して、TTL または M を表示させます。
2. セレクトボタンを押して、「WL」を点滅させます。
 ● 現在のワイヤレス設定「OFF」も同時に点滅します。
3. ＋ボタンまたは－ボタンを押して、「WL On」を点滅させます。
 ● 同様の方法で、「OFF」を点滅させると解除されます。
4. セレクトボタンを押します。

[2]-1 プログラムフラッシュを2台使用する方法

- プログラムフラッシュ5600HS（D）/5400HS /5400xiのいずれか2台が必要です（1台は3600HS（D）または3500xiでも可）。
- カメラは、α-9/7/807si/707si/507siのいずれかをお使いください。

プログラムフラッシュを2台使用する場合は、カメラに取り付けるフラッシュをコントローラー、カメラから離して置くフラッシュをオフカメラフラッシュとします。

コントローラーの設定

（5600HS（D）をコントローラーにする場合）

1. **5600HS（D）の電源をONにします。**
2. **モードボタンを押して、TTL を表示させます。**

3. **セレクトボタンを何回か押して、「WL」を点滅させます。**

4. **＋または－ボタンを押して、「WL CONTROL」を点滅させます。**

5. 点滅が止まるまでセレクトボタンを何回か押します。

6. 5600HS（D）をカメラに取り付けます。

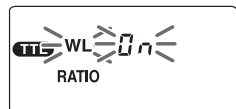
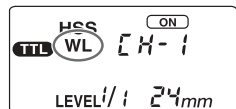
- 5400HS/5400xiをコントローラーにすることもできます。5400HSはフラッシュの使用説明書をご覧ください。5400xiの場合は「W.L - C.1」を表示させてください。

オフカメラフラッシュの設定

（5600HS（D）をオフカメラフラッシュにする場合）

1. 5600HS（D）の電源をONにします。

2. モードボタンを押して、TTL または M を表示させます。

3. セレクトボタンを何回か押して、「WL」を点滅させます。

4. ＋または－ボタンを押して、「WL On」を点滅させます。

5. 点滅が止まるまでセレクトボタンを何回か押します。

- 5400HS/5400xi/3500xiをオフカメラフラッシュにすることもできます。5400HSはフラッシュの使用説明書をご覧ください。5400xiの場合は「W.L - F.1」を表示させてください。3500xiの場合は、発光OFFの状態から、ワイヤレスフラッシュランプが点灯するまで発光ON/OFFボタンを押し続けてください。
- オフカメラフラッシュの表示部にRATIOが表示されている状態で撮影しないでください。正しい露出が得られないことがあります。

次ページへ続く

撮影方法

1. コントローラー付きのカメラとオフカメラフラッシュを設置します。

- 設置方法は43ページをご覧ください。
- 5600HS（D）をコントローラーに、Dフラッシュ以外（6ページ参照）をオフカメラフラッシュにする場合、ハイスピードシンクロをOFFにするか、カメラのフラッシュ同調速度を越えないようにシャッター速度を設定してください。同調速度を越えるとオフカメラフラッシュは発光しません。

2. 両方のフラッシュの充電完了を確認します。

- 5600HS（D）は、充電完了時には前面のAF補助光が点滅し、背面の ⚡ が点灯します。

3. テスト発光を行ない、オフカメラフラッシュの発光を確認します。

- テスト発光の方法は、AEロックボタン・スポットAEロックボタンを押すなどカメラによって異なります。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。
- 発光しない場合は、カメラ・フラッシュ・被写体の配置場所を変えるか、フラッシュのワイヤレス信号受光部をカメラに向けてください。また、コントローラーとオフカメラフラッシュのチャンネルが同一か確認してください（65ページ参照）。

4. もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

[2]-2 フラッシュを2台使用した光量比制御撮影

40ページの写真③のように、コントローラーとオフカメラフラッシュを1:2の割合で発光させることもできます。

● 光量比制御撮影は、マニュアルフラッシュ撮影 M ではできません。

コントローラーの設定

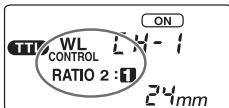
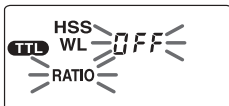
（5600HS（D）をコントローラーにする場合）

1. 48ページ1～4の要領で、5600HS（D）をワイヤレスコントローラーに設定します。

2. セレクトボタンを押して、「RATIO」を点滅させます。

3. ＋または－ボタンを押して、2：1 を選びます。

4. セレクトボタンを押します。

5. カメラに取り付けます。

オフカメラフラッシュの設定

49ページの要領でオフカメラフラッシュに設定します。マニュアルフラッシュ撮影 M はできません。

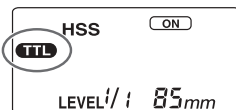
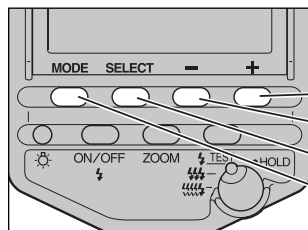
撮影方法

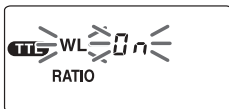
光量比制御でない撮影方法と同じです（50ページ）。

● シャッター速度は1/60秒以下（低速側）に設定してください。ワイヤレスハイスピードシンクロ撮影はできません。

[3]-1 ワイヤレスフラッシュリモコンを使用する方法

● ワイヤレスフラッシュリモコンと、プログラムフラッシュ5600HS（D）/3600HS（D）/5400HS/ 5400xi /3500xiのいずれか1台以上が必要です。
● カメラは、α-9/7/807si/707si/507siのいずれかをお使いください。

ワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書には、α-9xiの専用アクセサリーと書かれているものもありますが、上記のカメラであれば同様にお使いいただけます。テスト発光の方法はカメラによって異なりますので、カメラの使用説明書をご覧ください。
また、フラッシュについても5400xi/3500xiのみ使用可能となっていますが、5600HS（D）の場合でも5400xiと同様にお使いいただけます。
5600HS（D）では、次の方法でワイヤレスフラッシュに設定してください。

1. 5600HS（D）の電源をONにします。
2. モードボタンを押して、TTL または M を表示させます。

3. セレクトボタンを何回か押して、「WL」を点滅させます。

4. ＋または－ボタンを押して、「WL On」を点滅させます。

5. 点滅が止まるまでセレクトボタンを何回か押します。

撮影方法

ワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書をご覧ください。

- シャッター速度は1/60秒以下（低速側）に設定してください。ワイヤレスハイスピードシンクロ撮影はできません。

[3]-2 フラッシュを2台使用した光量比制御撮影

ワイヤレスフラッシュリモコン使用時にプログラムフラッシュを2台使用する場合、両方のフラッシュを1:2または2:1の割合で発光させることもできます。

- プログラムフラッシュ3600HS（D）と3500xiは、光量比の設定ができないため、これらのフラッシュのみでは光量比制御撮影はできません。5600HS（D）（または5400HS/5400xi）と組み合わせるとお使いになれます。
- 光量比制御撮影は、マニュアルフラッシュ撮影[M]ではできません。

5600HS（D）2台、または5600HS（D）と5400HS/5400xiを組み合わせた場合

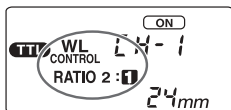
- 以下は5600HS（D）の設定方法です。その他のフラッシュについてはフラッシュまたはワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書をご覧ください。

1. 52～53ページ1～4の要領で、5600HS（D）をオフカメラフラッシュに設定します。

次ページへ続く

2. セレクトボタンを押して、「RATIO」を点滅させます。

3. ＋または－ボタンを押して、片方のフラッシュを2 : [1]に、もう片方のフラッシュを[2] : 1に設定します。

- **2 : [1]** に設定したフラッシュは、全体の1/3の光量を発光します。**[2] : 1** のフラッシュは全体の2/3の光量を発光します。
- 両方のフラッシュを**2 : [1]** または**[2] : 1** にすると、適正露出が得られないことがあります。

4. セレクトボタンを押します。

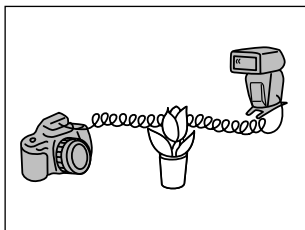
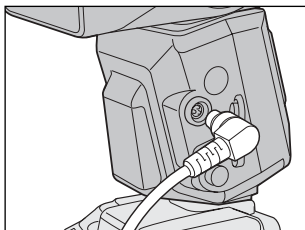
5. カメラに取り付けます。

3600HS（D）または3500xiを使用する場合

5600HS（D）は、53～54ページの1～4の要領でワイヤレス光量比制御撮影にして、**2 : [1]**（全体の1/3の光量を発光）に設定してください。
3600HS（D）または3500xiはワイヤレスフラッシュに設定してください（それぞれのフラッシュまたはワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書をご覧ください）。光量は自動的に**[2] : 1**（全体の2/3を発光）になります。

撮影方法

ワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書をご覧ください。

- シャッター速度は1/30秒以下（低速側）に設定してください。1/30秒を越えると自動的に1/30秒になります。

別売のオフカメラケーブルを使用して、カメラからフラッシュを離して撮影することができます。最大4台までのフラッシュを接続することができます。フラッシュの設置位置を気にせずに撮影できるので、被写体にさまざまな陰影を付けるなど自由なライティングが可能です。

- アクセサリー用ターミナルのあるフラッシュなら､そのままでケーブルの接続が可能です。5600HS（D）をケーブルに接続するときは、ターミナルキャップを開け、アクセサリー用ターミナルにケーブルを差し込んでください。

オフカメラ撮影が可能なフラッシュ

ケーブルを使用したオフカメラ撮影には、以下のフラッシュをご使用ください。

A群フラッシュ：5600HS（D）、5400HS、5400xi、5200i
B群フラッシュ：3600HS（D）、3500xi、2000xi、3200i、2000i

- オフカメラ撮影では、ADI・DI調光は自動的にTTLダイレクト調光になります（フラッシュ調光については37ページ参照）。
- オフカメラケーブルOC-1100使用時には、Pモードではハイスピードシンクロ撮影はできません。

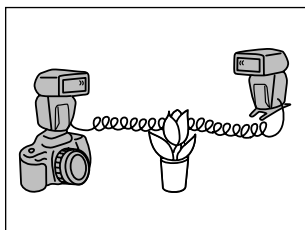
すべてのフラッシュの発光量を同じにする場合

前ページのA群、B群すべてのフラッシュの使用が可能です。

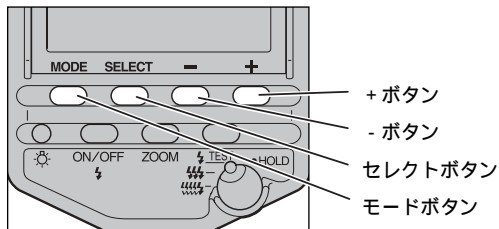
1. オフカメラ用アクセサリーを使ってフラッシュを接続します。

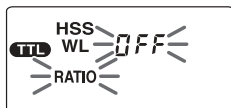
2. すべてのフラッシュの発光をONにします。

3. 撮影します。

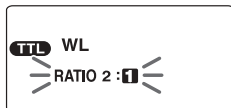
光量比制御撮影（フラッシュ間の発光量を変える）

2台のフラッシュ（複数の場合は合計光量）を1:2または2:1の割合で発光させることもできます。

- B群フラッシュ（55ページ）のみでの光量比制御撮影はできません。
- α-101siでは光量比制御撮影は行なわないでください。適正露出が得られないことがあります。

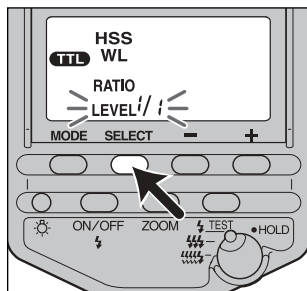
A群フラッシュで光量比の設定を行なってください。以下は5600HS（D）で光量比の設定を行なう場合の撮影方法です。その他のフラッシュについてはそれぞれの使用説明書をご覧ください。

1. **オフカメラ用アクセサリーを使ってフラッシュを接続します。**
2. **すべてのフラッシュの発光をONにします。**
3. **5600HS（D）のモードボタンを押して、TTL を表示させます。**

4. **セレクトボタンを何回か押して、「RATIO」を点滅させます。**

5. **＋または－ボタンを押して、2 : 1 または 2 : 1 に設定します。**

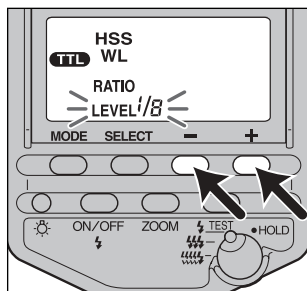
● 2 : 1 に設定すると、全体の1/3の光量を発光します。2 : 1 にすると全体の2/3の光量を発光します。

● 接続された他のフラッシュは、自動的に残りの光量分を発光します。

6. **点滅が止まるまでセレクトボタンを何回か押します。**
7. **撮影します。**

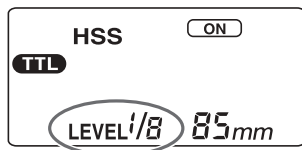
光量レベルの設定（LEVEL）

フラッシュの発光量を切り替えることができます。

1. セレクトボタンを何回か押して、液晶表示部に「LEVEL」を表示させます。

● 現在の光量レベルが表示されます。

● マニュアルフラッシュ撮影 M 選択時は、この手順を飛ばしてすぐに2に進むことができます。

2. ＋ボタンまたは－ボタンを押して、設定したい光量レベルを選びます。

● TTL撮影、マニュアルフラッシュ撮影の場合は、以下の範囲で光量レベルが切り替わります。
1/1、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32

● マルチ発光撮影の場合は、以下の範囲で光量レベルが切り替わります。
1/8、1/16、1/32

3. セレクトボタンを押します。

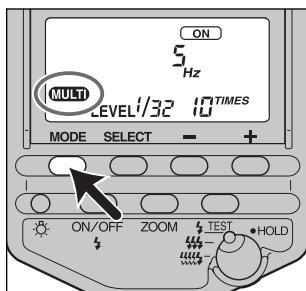
●光量レベルを変えると、表示部の距離表示もそれに応じて変化します。
●光量レベルは、TTLフラッシュ撮影・マニュアルフラッシュ撮影 M ・マルチ発光撮影 MULTI でそれぞれ別に設定されます。
●TTLフラッシュ撮影では、設定したレベルを最大発光量として、それ以下の領域でフラッシュが調光されます。
●マニュアルフラッシュ撮影では、フル発光量(最大光量での発光量)を1/1として、発光量を調節します。光量レベル1段(例：1/1→1/2)は、絞り値1段(例：F4→5.6)に相当します。

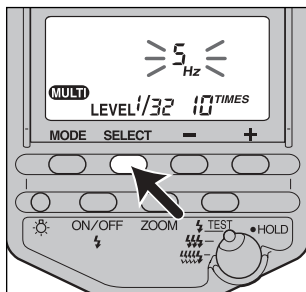
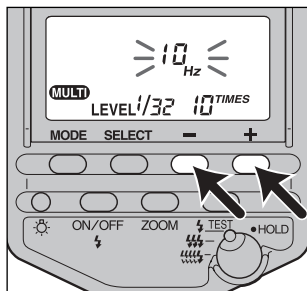
マルチ発光撮影（MULTI）

シャッターが開いている間にフラッシュを複数回発光させることができます（マルチ発光）。マルチ発光させると、動きのあるものを分解写真のように撮ることができます。

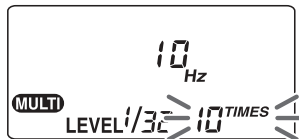
● マルチ発光撮影は、原則としてカメラのM（マニュアル）モードで行なってください。Mモードのないカメラではできません。

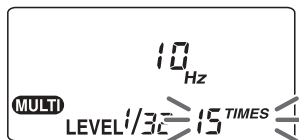
1. カメラをMモードに設定します。

2. モードボタンを押して、液晶表示部に MULTI を表示させます。

3. セレクトボタンを押して、「*Hz*」を点滅させます。

● 現在のマルチ発光の発光間隔（1秒あたりの発光回数）が表示されます。

4. ＋ボタンまたは－ボタンを押して、発光間隔を選びます。

● 以下の範囲で発光間隔が切り替わります。
100、50、40、30、20、10、9、8、7、6、5、4、3、2、1

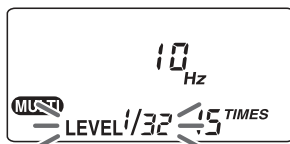
● ＋ボタンまたは－ボタンを押し続けると、数値は連続して変わります。

5. セレクトボタンを押して、「*TIMES*」を点滅させます。

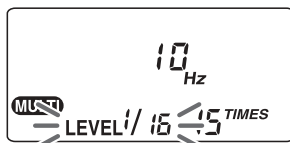
● 現在のマルチ発光の発光回数が表示されます。

6. ＋ボタンまたは－ボタンを押して、発光回数を選びます。

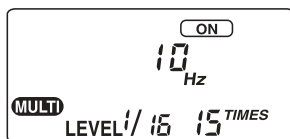
● 以下の範囲で発光回数が切り替わります。
- -、40、35、30、25、20、15、10、9、8、7、6、5、4、3、2

● ＋ボタンまたは－ボタンを押し続けると、数値は連続して変わります。

●「- -」位置では、シャッターの開いている間中、設定した発光間隔で可能な限り発光し続けます。

次ページへ続く

7. セレクトボタンを押して、液晶表示部に「LEVEL」を点滅させます。

● 現在の光量レベルが表示されます。

8. ＋ボタンまたは－ボタンを押して、設定したい光量レベルを選びます。

● 以下の範囲で光量レベルが切り替わります。
1/8、1/16、1/32

9. セレクトボタンを押します。

10.シャッター速度と絞り値を設定します。

● シャッター速度は、選択した発光間隔と発光回数に合わせて、次の式より求めてください。

発光回数（TIME）÷ 発光間隔（Hz）≦ シャッター速度

例えば、発光回数10回、発光間隔5Hzにした場合、
10÷5=2、でシャッター速度は2秒以上に設定してください。

11.フラッシュの充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● 液晶表示部には、1回の発光で適正露出の得られる距離が表示されます。

● マルチ発光撮影時は、手ぶれ防止のため三脚のご使用をおすすめします。
● ⚡またはHOLDを選んだ状態でテスト発光ボタンを押すと、押している間、設定した発光間隔・回数・光量レベルでテスト発光が行われます。
● カスタム設定により、カメラをMモードにしなくてもマニュアルフラッシュ撮影の設定を可能にすることもできます（67ページ参照）。

連続発光回数の上限

電池の充電量には限界があるため、マルチ発光撮影時の連続発光回数には上限があります。以下の表を目安にしてください。

アルカリ乾電池の場合

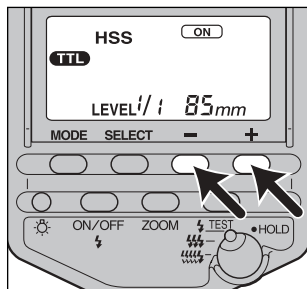
光量レベル	発光間隔（Hz）														
	100	50	40	30	20	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
1/8	3	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	7	7	7	10
1/16	5	6	7	8	8	9	9	10	10	10	10	10	15	20	40
1/32	10	10	10	15	15	20	20	20	25	30	40	40*	40*	40*	40*

ニッケル水素電池の場合

光量レベル	発光間隔（Hz）														
	100	50	40	30	20	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
1/8	3	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	7	7	10	20
1/16	5	6	7	8	8	9	9	10	10	10	10	15	20	40	40*
1/32	10	15	15	15	15	20	25	25	30	40	40*	40*	40*	40*	40*

40*は40以上を表します。

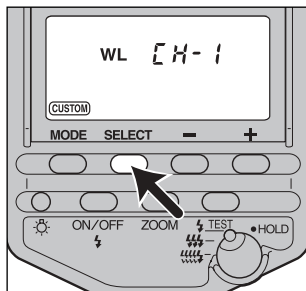
● 電池の種類や状態によって発光回数は変わります。別売りの外部電源パックEP-2を使用すれば、発光回数は上記の値よりも多くなります。

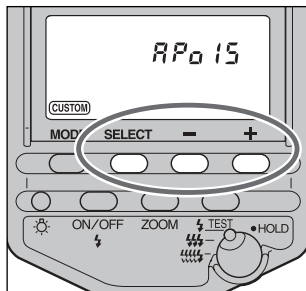
初期状態へのリセット

＋ボタンと－ボタンを同時に3秒間押し続けると、フラッシュの設定が以下の初期状態に戻ります。

項目	初期状態	ページ
発光あり／なし	発光あり （自動発光[AUTO][ON]または強制発光[ON]）	15
照射角	オートズーム（85mm）	23
フラッシュモード（TTL/M/MULTI）	TTL	36
ハイスピードシンクロ（HSS）	ON	38
ワイヤレスフラッシュ（WL）	OFF	40
光量比制御（RATIO）	OFF	--
TTL/Mでの光量レベル（LEVEL）	1/1	58
マルチ発光での光量レベル（LEVEL）	1/32	62
マルチ発光での発光間隔（Hz）	5	60
マルチ発光での発光回数（TIME）	10	61

カスタム設定

フラッシュの各種設定を、お好みの状態に変更することができます。以下の5つの項目の変更が可能です。

・ワイヤレスのチャンネル切り替え（チャンネル1～4）
・距離表示の単位（メートル／フィート）
・オートパワーオフまでの時間（4分／15分／60分／なし）
・ワイヤレス時のオートパワーオフまでの時間（60分／なし）
・マニュアルフラッシュ・マルチ発光が設定できる露出モード（Mモードのみ／全モード可能）

1. セレクトボタンを3秒間押し続けます。

● 最初の設定項目（ワイヤレスのチャンネル設定）が表示されます。

2. セレクトボタンを押して項目を選び、＋ボタンまたは－ボタンを押して希望の設定を選びます。

● セレクトボタンを押すたびに、上記の5つの項目の設定画面が順に現れます（次ページ参照）。

次ページへ続く

＋ボタンまたはーボタンで選択

セレクトボタンで選択

1. ワイヤレスのチャンネル切り替え

WL CH-1 CUSTOM | CH-2 | CH-3 | CH-4

チャンネル1　チャンネル2　チャンネル3　チャンネル4

2. 距離表示の単位

ft

メートル　フィート

3. オートパワーオフまでの時間

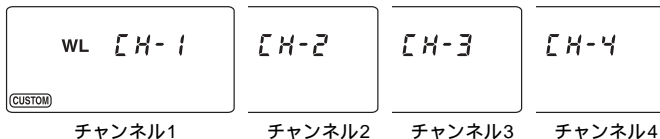
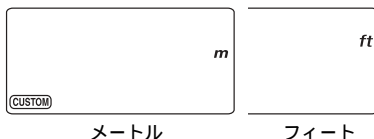
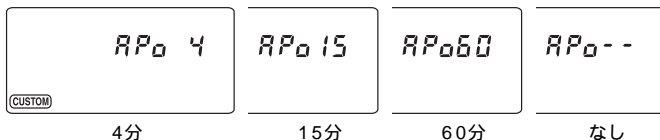
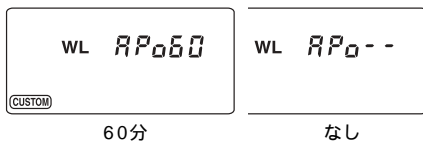
APo 4 CUSTOM | APo 15 | APo60 | APo- -

4分　15分　60分　なし

4. ワイヤレス時のオートパワーオフまでの時間

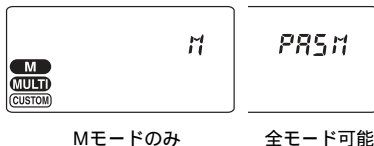
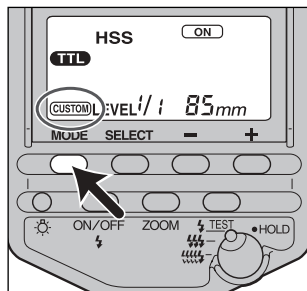
CUSTOM

WL APo- -

60分　なし

5. マニュアルフラッシュ・マルチ発光が設定できる露出モード

M

PASM

Mモードのみ　全モード可能

3.モードボタンを押します。

● 液晶表示部が元に戻ります。
● カスタム3、4、5で初期設定以外を選んだ場合、液晶表示部にCUSTOMが残ります。

● 項目1でワイヤレスフラッシュのチャンネルを変えた後は、フラッシュを一度カメラに取り付けて、シャッターボタンを半押ししてください。この操作により、カメラにフラッシュのチャンネル情報が転送されます。
● 項目5で「全モード可能」を選ぶと、すべての露出モードでのマニュアルフラッシュ撮影やマルチ発光撮影が可能となりますが、これは便宜上全モードでマニュアルフラッシュ撮影およびマルチ発光撮影が設定できるようにしたものです。実際にMモード以外で撮影を行なうと正しい露出が得られない可能性がありますので、Mモードでの使用をおすすめします。
● 選択された設定は、フラッシュをOFFにしても電池を抜いても、保持されています。

その他の製品と組み合わせた場合

以下に該当する製品をお使いの場合、本文と合わせてこちらもお読みください。

xiシリーズ一眼レフカメラをお使いの場合

（α-9xi、7xi、7xiパノラマ、5xi、5xiパノラマ、3xi、3xiパノラマ）

- Pモードではフラッシュは自動発光になります。強制発光にすることもできます。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。
- 7xi、5xi、3xi（パノラマモデルを含む、以下同様）の場合、Sモードではシャッター速度は自動的に設定されます。
- ハイスピードシンクロ撮影はできません。
- 9xiは内蔵フラッシュがないので、ワイヤレスフラッシュ撮影は41、42ページの[2][3]のみ可能です。テスト発光はAEロックボタンで行なってください。
- 7xi、5xi、3xiでのワイヤレスフラッシュ撮影は、41ページの[1]（内蔵フラッシュを使用する方法）のみ可能です。撮影方法はカメラの使用説明書をご覧ください。
- アイスタートが作動している間は、ワイヤレスフラッシュ撮影でのテスト発光はできません。
- 3xiでワイヤレスフラッシュ撮影を行なうときは、チャンネルは1に設定してください。

iシリーズ一眼レフカメラをお使いの場合

（α-8700i、7700i、5700i、3700i）

- Pモードではフラッシュは自動発光になります。8700iでは強制発光にすることもできます。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。
- Sモードでもフラッシュは自動発光になり、シャッター速度は自動的に設定されます。
- ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレスフラッシュ撮影はできません。
- 5700i、3700iではオフカメラ光量比制御撮影は行なわないでください。適正露出が得られないことがあります。

初期αシリーズ一眼レフカメラをお使いの場合

（α-9000、7000、5000）

- 別売りのフラッシュシューアダプターFS-1200が必要です。詳しくはFS-1200の使用説明書をご覧ください。

APS一眼レフカメラをお使いの場合

（ベクティスS-1、S-100）

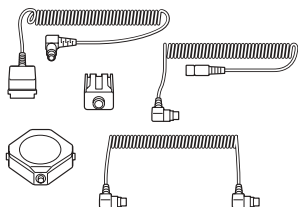
- Pモードではフラッシュは自動発光になります。カメラのフラッシュモード選択ボタンで強制発光にすることもできます。
- Sモードではシャッター速度は自動的に設定されます。
- ハイスピードシンクロ撮影はできません。
- ワイヤレスフラッシュ撮影は、41ページの[1]（内蔵フラッシュを使用する方法）のみ可能です。撮影方法はカメラの使用説明書をご覧ください。
- S-100にはオートロックアクセサリーシューがないので、フラッシュをカメラに取り付けることができません。ワイヤレスフラッシュ撮影でご使用ください。光量比制御撮影はできません。また、チャンネルは1に設定してください。
- APS（新システム）のフィルムは、35mmフィルムと比べてフィルムのサイズが異なるため、同じ焦点距離でも画角が異なってきます。このフラッシュは35mmフィルムの焦点距離で24mmの画角をカバーするので、これをAPSの焦点距離に当てはめると、19mmの画角をカバーすることになります。例えばVズーム22-80mmF4-5.6レンズの場合、完全に画角がカバーされるので、問題なくお使いいただけます。

初期ミノルタデジタルカメラをお使いの場合

（ディマージュRD3000、デジタルカメラRD-175）

- Pモードではフラッシュは自動発光になります。カメラのフラッシュ強制発光ボタンを押しながら撮影すると、強制発光になります。
- Sモードではシャッター速度は自動的に設定されます。
- ハイスピードシンクロ撮影はできません。
- RD3000は内蔵フラッシュがないので、ワイヤレスフラッシュ撮影は41、42ページの[2][3]のみ可能です。テスト発光はスポット測光ボタンで行なってください。
- RD-175でのワイヤレスフラッシュ撮影は、41ページの[1]（内蔵フラッシュを使用する方法）のみ可能です。撮影方法はカメラの使用説明書をご覧ください。

αデジタル一眼レフカメラをお使いの場合

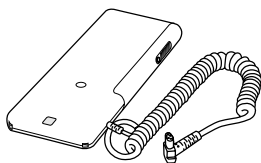
- デジタル一眼レフカメラのCCD（フィルムの役目を果たす部分）のサイズは、35mmフィルムと異なるため、同じ焦点距離でも画角が異なってきます。同じ焦点距離だとデジタル一眼レフで得られる画角の方が狭いため、フラッシュ光は撮影範囲を完全にカバーすることができます。この使用説明書に記載している焦点距離や画角は、レンズ表記上やフラッシュに表示される焦点距離と同じで特に読み換える必要はなく、そのままお使いいただけます。

オフカメラ用アクセサリー

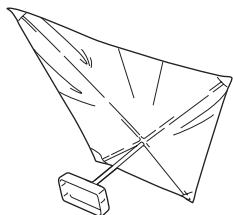
オフカメラ用アクセサリーには、以下の製品があります。

・オフカメラケーブル
・オフカメラシュー
・エクステンションケーブル
・ケーブルCD
・トリプルコネクターTC-1000

オフカメラケーブルを使えば、フラッシュをカメラから離して自由な位置から照明することができます。エクステンションケーブルでさらに延長することも可能です。また、ケーブルCDやトリプルコネクターTC-1000により、さまざまな多灯フラッシュ撮影が楽しめます。

● 5600HS（D）では、オフカメラシューを使わずに、オフカメラケーブルをフラッシュのアクセサリー用ターミナルに直接接続できます。フラッシュを三脚に固定する場合は、オフカメラシューをご使用ください。

外部電源パックEP-2セット

単3形アルカリ電池6本使用のコンパクトな外部電源パックです。充電時間を半分以下に、発光回数を2倍以上にすることができます。

バウンスリフレクターVセット

5600HS（D）の発光部に取り付けるだけで、屋外や反射面のない室内でも、簡単にバウンス撮影ができます。軽くてコンパクトな折り畳み式です。

- 液晶表示部の調光距離は表示されません。ハイスピードシンクロも解除されます。
- リフレクター（反射面）部分はバウンスリフレクターIII／IVと共通です。バウンスリフレクターIII／IVをお持ちの場合は、フラッシュに取り付けるアダプター（プログラムフラッシュ5600HS（D）用アダプター）だけを購入してお使いになることができます。

5600HS（D）と他のアクセサリーとの組み合わせ

- コントロールグリップCG-1000は正しい制御が行われないため、ご使用になれません。
- ソフトライティングセットと組み合わせてのご使用はおすすめできません。
- ソフトライティングセットⅡはご使用になれますが、ADI・DI調光は自動的にTTLダイレクト調光になります（フラッシュ調光については37ページ参照）。

取り扱い上の注意

撮影上の注意

- このフラッシュは強い光が出ますので、人物の目の前で発光させないでください。

電池について

- 本製品にアルカリ乾電池を入れたまま保管しないでください。液漏れにより電池室を損傷する原因となります。
- アルカリ乾電池はその特性上、温度や保管のしかたによっては、電池容量が実際の容量よりも低く液晶表示部に表示されることがあります。このような場合でも、フラッシュをしばらく使用すると電池容量が回復します。▭が点滅して使用できない場合でも、発光ON/OFF切り替えボタンを何度か押すと、電池容量が回復し使用可能になることがあります。それでも回復しないときは、電池を交換してください。
- リチウム電池をご使用の場合、高温下での発光時や連続発光により電池が発熱すると、電池内部の安全回路が働き、▭が点滅して一時的にフラッシュが使用できなくなる場合があります。その場合でもしばらく電池を休ませて温度を下げると、再び使えるようになります。
- ニッケル水素電池はその特性上、電池容量が残り少なくなると急激に性能が劣化します。撮影中に突然▭のみが点滅してフラッシュが使用できなくなったり、▭が点滅し始めてすぐに使用不可能になることもあります。
- 電池の製造後の経過期間により、新品電池でもフラッシュの発光間隔および発光回数が性能表と異なることがあります。

使用温度について

- このフラッシュの使用温度範囲は－20℃～50℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにフラッシュを放置しないでください。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、屋外でビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使う、などの点に留意してご使用ください。また低温下では、電池の容量が残っていても一時的に が点滅することがあります。なお低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復し再び使えるようになります。
- このフラッシュは防水性能は備えていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等が残っていると故障の原因になります。

手入れのしかた

- 清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。砂がついたときは、こすると傷を付けますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。

アフターサービスについて

- 本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

主な性能

ガイドナンバー

通常（閃光）発光時（ISO 100）

光量レベル	レンズ焦点距離（照射角）mm						
	17	24	28	35	50	70	85
1/1	18	30	32	38	44	50	56
1/2	12	21	22	26	31	35	38
1/4	9	15	16	19	22	25	27
1/8	6.4	10	11	13	15	17	19
1/16	4.5	7.5	8	9	11	12	13
1/32	3.2	5.3	5.7	6.7	7.8	8.8	9.7

ワイヤレス発光時（ISO 100）

光量レベル	レンズ焦点距離（照射角）mm						
	17	24	28	35	50	70	85
1/1	14	25	26	30	35	41	42

ハイスピードシンクロ（フラット）発光時（ISO 100）

シャッター速度	レンズ焦点距離（照射角）mm						
	17	24	28	35	50	70	85
1/250	6.7	12	13	15	17	19	22
1/500	4.5	8.6	9.5	10	12	13	16
1/1000	3.5	6	6.7	7.5	9	9.5	11
1/2000	2.4	4.3	4.5	5	6	6.7	8
1/4000	1.7	3	3.5	3.7	4.5	4.7	5.6
1/8000	1.2	2.1	2.4	2.5	3	3.5	4
1/12000	1	1.8	2	2.1	2.5	2.8	3.5

発光間隔／発光回数

	アルカリ	リチウム	ニッケル水素
発光間隔（秒）	約0.2～11	約0.2～13	約0.2～8
発光回数（回）	約90～3200	約250～8000	約80～2800

- 発光回数とは、新品電池で電池消耗までに発光できる回数を表します。

照射角

照射角	レンズ焦点距離（照射角）mm						
	17	24	28	35	50	70	85
上下（°）	115	60	53	45	34	26	23
左右（°）	125	78	70	60	46	36	31

連続発光　5コマ／秒で40回の連続撮影に追随可能
（閃光発光時、光量レベル1/32、ニッケル水素電池使用時）

AF補助光　低コントラストかつ低輝度時自動発光
ワイドフォーカスエリア対応
作動範囲（α-7装着時）
　AF中段3エリア：約0.5〜10m（24-105mm）
　AF上下段6エリア：約0.5〜5m（35-105mm）

調光方式　プリ発光による光量制御　TTLダイレクト調光　マニュアル発光

大きさ　77.5（幅）×132（高さ）×95.5（奥行き）mm

重さ　370g（電池別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

お客様センター

本製品に関するお問い合わせ、ご相談などをお受けします。

フリーコール　0120-162-414

※通話料金は無料です。携帯電話・PHSからもご利用になれます。

FAX　　03-5689-9211

受付時間　10：00 ～18：00（日・祝日定休）

ホームページでも弊社αシリーズ一眼レフカメラ製品に関する情報を提供しております。

http://konicaminolta.jp/alpha/

9223-8841-11　P-I509